

# 趣味や生涯スポーツに良し、世界のトップをめざすも良し。テニスの魅力をぜひ、皆さんに体感してほしい！

青い空、白い雲。テニスコートからはボンボンという快音だけが響く、とは限りません。競技志向のテニスプレイヤーは時に絶叫で気合を入れ、よそよそしくコートに立つビギナーのラケットはびゅんびゅんと風を切り…。それでもみんな夢中でボールを追いかけて、爽やかな気分になれるから不思議です。今回ゲストにお招きしたのは、母親と一緒に遊びでテニスを始め、やがては世界にその名を響かせた元テニスプレイヤーの中村藍子さん。波乱に満ちた選手生活を振り返りながら、あらためてテニスの魅力についてお話しいただきました。

—テニスを始めたきっかけは？

中村 5歳の時、母親と一緒に始めました。ピアノも習ったし、陸上でも好成績を上げていたんですが、夢中になれたのはそれほど上手くなかったテニスだけでしたね。(笑)。

—16歳の時には全日本大会で

でなく、苦しかったりハビリ期間や復帰後も含めて素晴らしい体験でした。それは私を支えてくれる大勢の人々の存在に気づけたからです。上位で戦うことを目標にひたむきな努力を続ける選手の気持ちも理解できた気がします。

—今後の目標を教えてください。

中村 指導者の立場でテニス

—フォアもバックも両手打ちですが、それはいつからですか？

中村 ずっとです。(笑)。5歳の私にラケットは重すぎたので、両手で打つうちに定着しました。

た。打撃力が強いのも魅力です。世界を相手に戦うには、パワー負けしないことが肝心。片手打ちよりリーチは短くなりませんが、その分フットワークに磨きをかけました。

—最も印象に残っているゲームを教えてください。

中村 2005年、初めて全豪オープンに出場を果たした時のこと。グランドスラム(4大国際大会の一つ)だけあって注目度が高く、しかも2回戦はその日のメインで、ゲームがあるのは私の出るセンターコートだけ。およそ2万人の観客が見つめる中での真剣勝負に心が沸き立ち「ここでやっていきたい!」と強く思ったのです。

—以降はメジャー大会の常連になり、世界ランキング47位。ところが好事魔多しと言いますか?!

中村 試合中の大ケガ(左足前十字じん帯損傷)にとことん落ち込みました。でもやっぱりテニスが好きだと気づき、一生懸命リハビリに取り組んで14か月後に復帰。ランキングも無くなり、0からのスタートでした。

—グランドスラムの予選にも出場し、ある大会では優勝も果たしましたね。

中村 それでも自分本来のテニスはできませんでした。グランドスラム本戦という目標を狙える状態でなければ意味が無い。そう感じて引退を決意したんです。

—テニスプレイヤー人生を振り返ってひとこと。

中村 テニスだけに向き合い続けた11年間は、私にとってかけがえのない宝物です。スポットライトを浴びた時だけ

と関わってあげればいかなど考えています。私がそうしてもらったように、選手一人ひとりの個性や持ち味を活かしのびのびと育てていきたいですね。テニスは趣味や生涯スポーツとしても大きな魅力があります。はじめは難しくてもコツさえつかめばバツと面白く

なるんですよ。ひよっとすると思わぬ才能が開花するかも!! 大阪市にはテニスコートや教室がたくさんあります。皆さんもぜひ気軽に始めてみませんか?!

## Special Interview

スペシャルインタビュー

元テニスプレイヤー  
中村 藍子さん  
なかむら あいこ

1983年生まれ、大阪市出身。幾度もグランドスラムに出場し、世界ランキング47位をマークした元テニスプレイヤー。フォアハンド、バックハンドとも両手打ちの豪快なショットで、体格に勝る相手選手をほんろうした。一方、愛くるしい笑顔は「AIKOスマイル」として人気を集める。膝の手術を受け、治療後に再スタートを切るが、2012年に11年間の選手生活に幕を閉じた。今後は指導者としてテニスと関わる予定。